

始良市複合新庁舎（本庁舎）建設 基本設計図書【概要版】

1 設計の基本方針

新庁舎は、東日本大震災や熊本地震の教訓から、防災拠点として行政機能を維持できる災害に強い庁舎として計画します。また、行政機能を集約した本庁舎として、多様化する市民ニーズに応える機能を備え、市民サービスを向上し、市民に親しまれる庁舎として計画します。

基本設計では、始良市複合新庁舎建設基本構想・基本計画（平成30年8月策定）に掲げる『複合新庁舎建設の基本的な考え方』及び『基本方針』を具現化するものとします。なお、この基本設計図書（案）には検討段階の内容も含まれており、今後の検討により変更される場合がありますので、予めご了承ください。

① 地域防災拠点としての施設

○災害に対して十分な防災拠点機能を備える庁舎として、災害対策本部機能を強化。大規模災害時には、他の機関とも連携できる災害対策ゾーンを計画します。

○非常用発電機等の非常時バックアップ設備^{*1}により災害時においても復旧復興に欠かすことのできない行政機能を維持・確保します。

○十分な耐震性能を有し、安全性の高い庁舎として、大地震後においても初動体制が確立され、市民の安全・安心が確保できる防災拠点施設として、免震構造を採用します。

② 市民に親しまれ、まちづくりの拠点となる施設

○市民に開かれた、親しまれる庁舎として、市民と行政の協働の場、市民が気軽に利用できる交流空間として『交流館』を計画します。

○歴史・文化を尊重し、まちづくりの拠点となる庁舎として、市民が会議やイベントなどで閉庁時も利用できる『多目的室』等を計画します。

○市民の健康増進と子育てをサポートする庁舎として「高齢者や子ども」に関する窓口を1階に集約します。

③ ユニバーサルデザイン^{*2}を取り入れた、ひとにやさしい施設

○すべての来庁者に利用しやすい庁舎として、エレベーターや多目的トイレなどの設備やローカウンターなどの家具を適切に配置します。

○すべての来庁者にわかりやすい案内表示として、番号や色分けのほか、目的に合わせた表記など用件のある部署に迷うことなく訪れることができる案内表示（サイン）を計画します。

④ 環境にやさしく、経済的な施設

○庁舎を東西方向に配置し、南北面から自然採光を確保。また、庇により夏期の日射による熱負荷を低減します。

○自然採光・換気などの自然エネルギー、太陽光発電等の再生可能エネルギー^{*3}を活用します。

⑤ 市民サービスの向上を実現する施設

○わかりやすく、利用しやすい庁舎として、部署を階層ごとに明快に配置。また、プライバシーに配慮したカウンターや相談室など安心して利用できる窓口を計画します。

○利便性の高い庁舎として、市民利用の多い窓口を1・2階に集約。庁舎メイン入口の近くに立体駐車場を整備し、車道を横断することなく庁舎を訪れることができ、立体駐車場からは、2階にも直接出入りできる計画とします。

⑥ 機能性・効率性の高い施設

○効率性が高く無駄のない庁舎として、待合スペースや会議室、相談室などを共有化します。

○機能の集約と連携が図りやすい庁舎として、関連部署を見通しの良いワンフロアに配置します。

○高度情報化社会に対応した庁舎として、情報公開・情報発信コーナーを設置します。

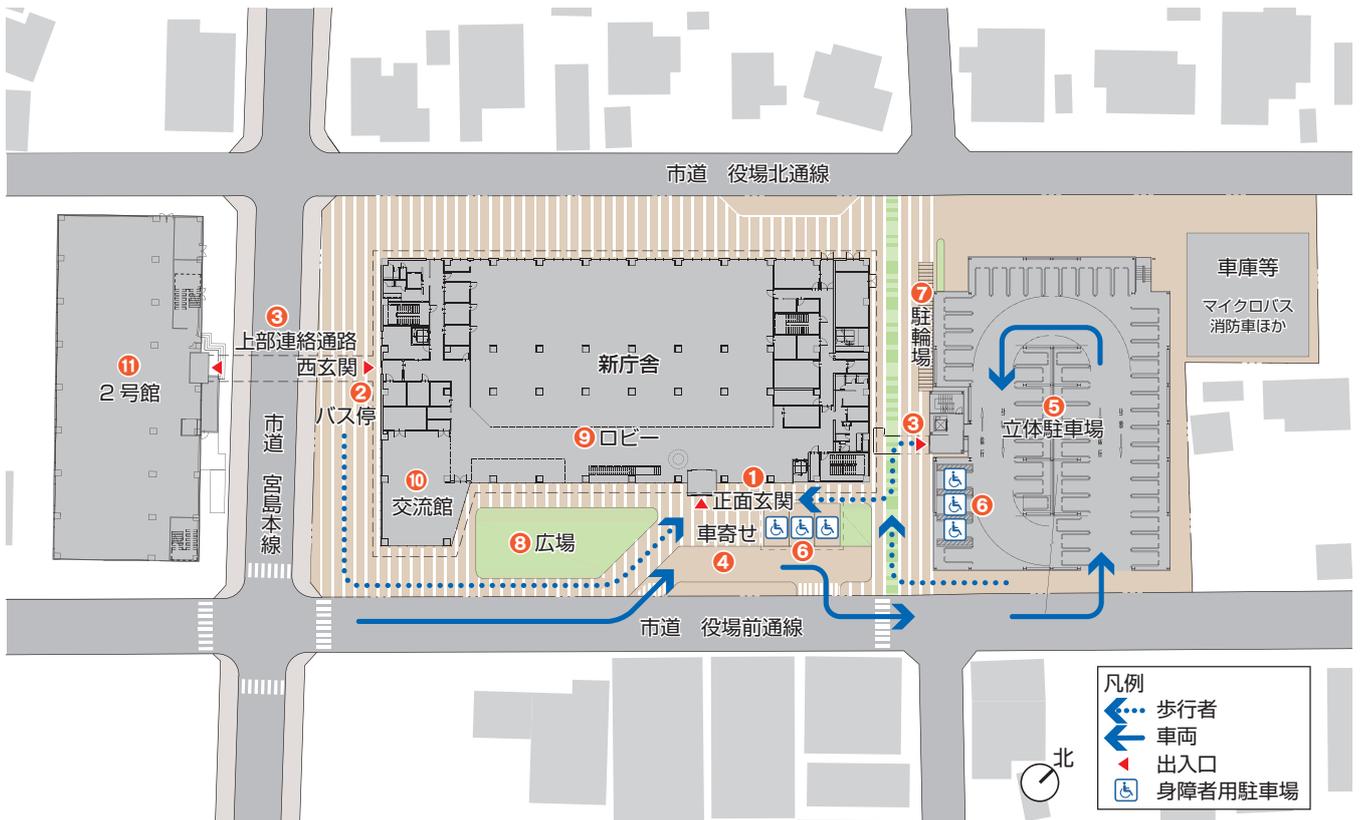
○将来的な行政組織の変化や市民ニーズの変化に柔軟に対応できる庁舎として、執務室内はフリーアクセスフロア^{*4}を採用するとともに、机などの配置基準を設けることで、改修工事等することなく多様化する行政ニーズに対応します。

○職員が働きやすい庁舎として、ミーティングや食事などができる多機能スペースを計画。また、更衣室などの職員エリアを計画します。

2 配置計画

新庁舎は、既存の2号館と連携を図るために敷地西側に配置し、3階の連絡通路で接続します。また、主要アクセスルート*5である市道役場前通線に面する南側に正面玄関や広場、車寄せ*6を設ける配置とし、敷地北側の住宅等のプライバシーの確保、交通量の軽減等に配慮します。

立体駐車場は、来庁者と公用車用の駐車場として、敷地東側に配置します。来庁者は、車道を横断することなく庁舎を訪れることができます。また、新庁舎と連絡通路で接続し、安全性だけではなく利便性にも配慮した計画とします。



配置イメージ

3 動線計画

- 1 正面玄関**：立体駐車場やJR帖佐駅からの動線を考慮し役場前通線に面して配置します。
- 2 西玄関**：既存のバス停に面する配置とします。
- 3 連絡通路**：本庁舎と2号館、本庁舎と立体駐車場を繋ぐ動線を計画します。
- 4 車寄せ**：正面玄関前に屋根付きの車寄せを計画します。

4 駐車場・駐輪場計画

- 5 立体駐車場**：交通量の多い宮島本線から役場前通線に車両動線を引き込む計画とします。駐車場は、来庁者と公用車を対象とします。
- 6 身障者用駐車場**：正面玄関前と立体駐車場の1階に計画します。
- 7 駐輪場**：車両動線と交錯しない配置とします。

5 オープンスペース*7計画

- 8 広場**：役場前通線に面する屋外のオープンスペースを計画します。交流館との一体的な利用や災害時には防災広場として機能します。
- 9 1階ロビー**：広場と一体感のある、長さ50m程の開放的なロビー空間を計画します。
- 10 交流館**：閉庁時でも市民が気軽に利用できるスペースを計画します。また、選挙や行政イベント等の特設会場として活用します。

6 2号館の活用

- 11** 1階は、子育て・介護・自立支援・消費生活問題などの市民相談窓口を集約します。2階は、市議会機能や会議室等を整備します。3階は、既存の議場を有効活用します。

7 平面計画

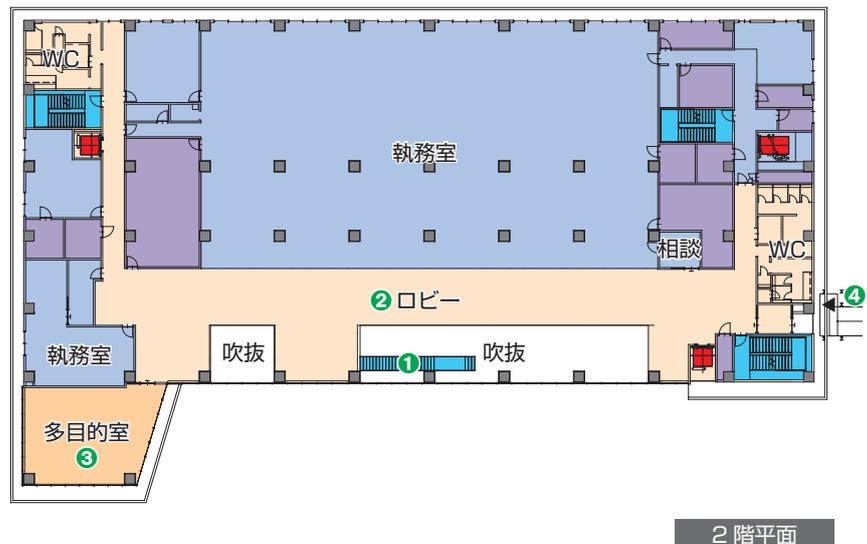
1F 利用頻度が高い市民窓口と交流のフロア

- ① 西玄関：バス停前に配置します。また、閉庁時の玄関、時間外・休日窓口として計画します。
- ② 総合案内：正面玄関横に配置します。
- ③ エレベータ・階段：東西にそれぞれ配置し、各階や2号館・立体駐車場は、バリアフリーで繋がります。
- ④ トイレ：車いす利用者用やオストメイト対応の多目的トイレを各階に2か所設置します。
- ⑤ 相談室：相談者のプライバシーに配慮した計画とします。
- ⑥ 交流館：閉庁時にも気軽に利用できる市民交流空間として計画します。
- ⑦ 情報発信コーナー：市政情報や観光情報などを発信します。



2F 税金に関する窓口と教育のフロア

- ① 中央階段：1・2階の窓口を立体的に接続します。
- ② 2階ロビー：吹抜に面した明るい空間とします。
- ③ 多目的室：会議や研修など職員や市民が多目的に利用するスペースとします。シャッター等で執務室と明確に区分し、閉庁時にも利用できます。
- ④ 連絡通路：立体駐車場と接続します。



3F 災害等発生時の防災拠点フロア

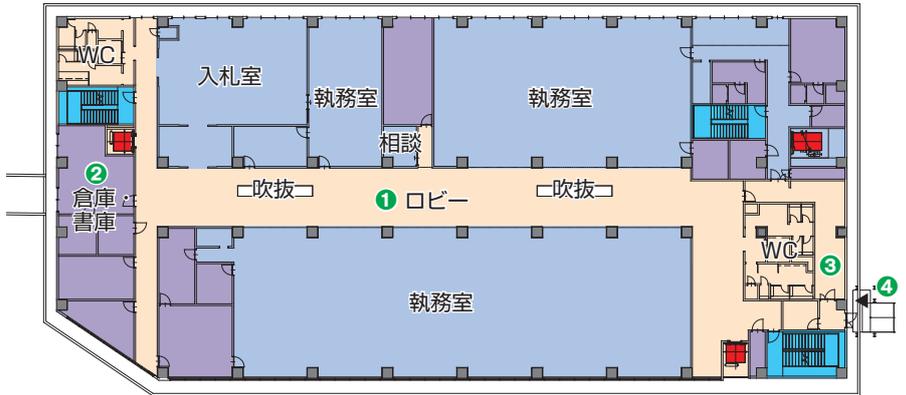
- ① 災害対策本部機能：市長室、副市長室、危機管理課、大会議室等を3階に集約し、災害時には速やかに防災拠点として機能する計画とします。
- ② 庁議室・市長室・副市長室：災害時は庁議室を災害対策本部室とし、市長・副市長と連携しやすい配置とします。
- ③ 大会議室：災害時は、国や県、警察、消防、自衛隊などが集まる作戦指令室として利用できる広さを確保します。
- ④ 連絡通路：2号館や立体駐車場と接続します。



7 平面計画

4F 土木・建築・農林水産のフロア

- ① **ロビー**：吹抜を設け、自然採光と自然換気による快適な空間とします。また、ロビーの両側に窓口を配置することにより、相談等について横断的に対応することができます。
- ② **倉庫・書庫**：図面や資料などを集約配置し、効率的に利用できる計画とします。
- ③ **通路 / 作業着置場**：災害現場や建設現場等に出向しやすい職員動線を確保します。
- ④ **連絡通路**：立体駐車場と接続します。



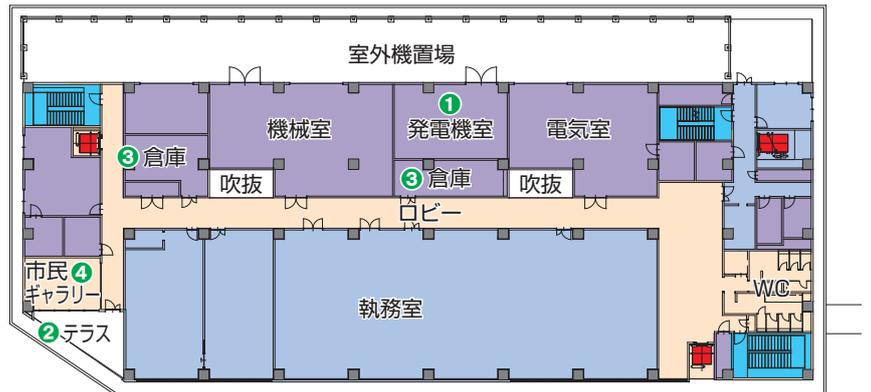
凡例

■ 執務エリア	■ 会議室・倉庫等	■ 階段
■ 共用エリア	■ 市民利用エリア	■ エレベーター

4階平面

5F 設備・機械などのフロア

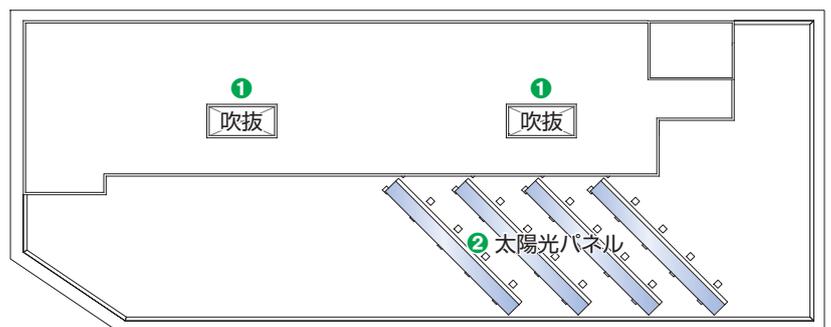
- ① **発電機室**：機械室等と共に水害の恐れのない最上階に集約配置します。また、メンテナンスしやすい屋外搬入口を設け、配管・配線ルート短縮化などによる効率化を図ります。
- ② **テラス**：最上階には、桜島を一望できるテラスを設置します。
- ③ **倉庫**：災害用備蓄品などを保管するスペースを確保します。
- ④ **市民ギャラリー**：最上階に展示会などができるギャラリーを配置します。



5階平面

R_F 屋上

- ① **吹抜**：自然採光と自然換気により、自然エネルギーを有効活用した省エネルギー庁舎を計画します。
- ② **太陽光発電設備**：再生可能エネルギーの導入により、環境負荷の低減を図ります。



屋上階平面

8 立面計画

① 立面計画の考え方

始良市は、豊かな自然環境や県内最多の文化財などの歴史景観と融合しながら市街地を形成し、発展を遂げてきました。計画地は市の中心市街地に位置しており、市のシンボルとして長く時を重ねていくため、維持管理しやすい施設であることが重要です。

② 立面計画の特徴

始良の風景と調和する庁舎

豊かな自然に囲まれた始良市の新庁舎として、地域産材を使用するなど「始良らしさ」を取り入れた親しみやすい外観とすることで、周辺の街並みと調和し、「市の新たな顔」となる庁舎とします。

周辺環境に配慮した庁舎

道路から計画建物をセットバックすることで、周辺への圧迫感を抑えます。また、効率の良い平面計画により、必要面積を確保しながら高さを抑えることで周囲の日照や通風に配慮します。

維持管理しやすい庁舎

維持管理費のかかりにくい外装材を選定するとともに、メンテナンス用バルコニーを設置することで、ガラス窓や外壁等の維持管理が容易に行える計画とします。



外観イメージ (アイレベル)

9 ユニバーサルデザイン・サイン計画

すべての人が利用しやすく、わかりやすい庁舎とします。

- ① アクセスしやすい構内通路
- ② 車いす利用者、つえ利用者などの安全対策
- ③ 視覚障がい者の安全対策
- ④ 聴覚障がい者の安全対策
- ⑤ 誰もが利用しやすく、分かりやすいサイン



10 構造計画

大地震後も災害対策の指揮・情報伝達等の防災拠点施設としての機能を維持し、業務継続できる計画とします。

構造概要

構造形式	免震構造 (基礎免震)
規模	地上5階
構造種別	鉄筋コンクリート造 (主構造)、1階床下を免震層とする基礎免震構造
架構形式	ラーメン構造
基礎形式	杭基礎
耐震性能	構造体・I類 (相当)、建築非構造部材・A類、建築設備・甲類 (庁舎)

11 設備計画

① 空調換気設備概要

熱源設備	空冷ヒートポンプチラー（外気処理用空調機熱源）、ビル用マルチエアコン
空調設備	ビル用マルチエアコン室内機
換気設備	全熱交換器付き外気処理用空調機による第一種換気方式（主要執務室）、全熱交換器による第一種換気方式（個室）、排気ファンによる第三種方式など（倉庫、トイレ）
排煙設備	自然排煙のため、機械排煙なし
中央監視	壁付け中央監視装置

② 給排水衛生設備概要

給水設備	給水系統 上水、雑用水 給水方式 上水：FRP 製受水槽方式＋加圧給水ポンプユニット 雑用水：躯体利用地下水槽＋加圧給水ポンプユニット＋薬注装置
排水設備	屋内 屋内分流（汚水＋雑排水（合併浄化槽）、ドレン系、雨水系） 屋外 自然流下
給湯設備	貯湯式電気給湯器（給湯室）、ヒートポンプ給湯器（シャワー）
衛生器具設備	節水型衛生器具
消火設備	屋内消火栓設備、消火器、連結送水管、窒素ガス消火設備（サーバー室）

③ 電気設備概要

受変電設備	受電方式：6.6kV 60Hz、1 回線受電 架空引込 QB Tr 容量： 一般電灯 1 φ 3W 150 kVA x3 一般動力 3 φ 3W 500 kVA x2 非常保安電灯 1 φ 3W 150 kVA
非常用発電機設備	発電機：6.6kV 60Hz 500kVA 原動機：ディーゼルエンジン 燃料：（軽油）72 時間分 燃料貯蔵設備：地下オイルタンク
幹線・動力設備	電灯幹線：1 φ 3W210-105V 動力幹線：3 φ 3W210V
電灯設備	照度：国土交通省・JIS9110：2010 に準拠 器具：全館 LED 非常用照明：電源別置型 誘導灯：電池内蔵型
構内交換設備	構内交換機
誘導支援設備	設置場所：多目的トイレ
テレビ共同受信設備	UHF、BS アンテナ設置
監視カメラ設備	ネットワークカメラ
電気時計設備	設置場所：執務室、会議室 他
入退室管理設備	操作器：カードリーダー
映像音響設備	設置場所：議場、大会議室 他
自動火災報知機	受信機：R 型
非常用放送	AMP：非常・業務用兼用型
雷保護設備	JIS A 01:2003 に準拠 保護レベルⅣ

用語解説

- * 1 **バックアップ設備**：万が一の災害や事故、機器の故障に備えて設ける二重の機能維持。
- * 2 **ユニバーサルデザイン**：文化・言語・国籍の違いや、障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、多くの人が利用しやすい環境づくりへの取り組み。
- * 3 **再生可能エネルギー**：太陽光や水力、風力、地熱などを利用したもので、石油や石炭、天然ガスといった有限である化石燃料とは異なり、資源が枯渇しないエネルギー。
- * 4 **フリーアクセスフロア**：床下面に電線や情報ケーブルなどの配線用の空間が確保された床方式。
- * 5 **主要アクセスルート**：公共交通機関や自家用車等により本庁舎を訪れるための主要な交通動線のこと。市道宮島本線と市道役場前通線のことを指す。
- * 6 **車寄せ**：建物の入口近くに車を寄せて、乗降するためのスペース。
- * 7 **オープンスペース**：建物周辺に設けられる空地のこと。